

無上尊

月報良覺寺

No 316

親鸞聖人滅後760年12月発行
発行所◇真宗大谷派良覺寺
発行者◇良覺寺住職釋願證

◇ Contents ◇

2021年報恩講法話録（前）／良覺寺の動き
お内仏のお給仕……………「土香炉（どごろう）」
耳をすませば……………『極楽寺ひねもす日記』

1

January

妄念はもとより
凡夫の地体なり
源信僧都



非常に熱心に仏法を聴聞する真宗門徒のお婆さんがいた。熱心な聞法が高じて法話に出てくる聖教の言葉はほぼ覚えてしまい、周りの人からも尊敬されていた。そのお婆さん、元気なうちは良かったが、不治の病を患ってしまった。病の苦しみから仏法を喜ぶ心がなくなり、「地獄に堕ちる」と何度も口に出すようになった。その姿を見かねた娘が、浄土真宗の講師として高名であった香樹院徳龍師に相談に行った。母の様子を伝え、母を助ける言葉を頂けないものかと懇願する娘に、香樹院は「自分勝手に、地獄へ堕ちると言うならば仕方がない」と言う。絶望し涙を流しながら帰ろうとする娘を香樹院は呼び止め、こう言われた。

「凡夫じゃもん、地獄へ堕ちるのは今更の事ではないぞ。沈むのが石の自性なら、地獄に落ちるのが凡夫の自性でないか。堕ちるに間違いないものを、堕ちるまんまで、堕とさんぞと呼んでくださるのが阿弥陀様の呼びかけじゃが、それでも自分勝手に堕ちるつもりかいや」。

娘から香樹院の言葉を聞いたお婆さん、知識として知っていた「地獄堕ちの愚かな凡夫」とは私のことであつたと初めてうなずいた。

香樹院の言葉を聞いても病は治らないし、境遇にグチを言う自分が何でも受け入れられる人に変わることもない。境遇に嘆きグチを言う愚かな凡夫とは、自分のことであつたと教えられ、深くうなずくことが仏法聴聞のご利益なのだ。

True Living

～真の生活～

2021年11月20日21日に勤修された「2021年良覺寺報恩講講話録」の前編です。

法話は太宰不二夫師(岐阜県揖斐川町・真教寺住職)でした。

二〇二一年報恩講講話録前編 太宰不二夫師

お釈迦様は三五歳のときに覺りを開き仏陀と成られました。仏陀とは「目覺めた人」という意味です。

お釈迦様が覺りを得られたことが評判になり、ある町に行かれたとき大歓迎されました。そして、その町の代表者がお釈迦様にお願いがあがったといいます。そのお願いは私たちが仏教や宗教に期待していることです。「お釈迦様、ぜひここで奇跡を起こしてください」と。私も神社仏閣にお参りして「〇〇しますように」とお願いします。私たちは二五〇〇年前から変わっていません。

奇跡を起こしてくれと願う人にお釈迦様はこう言われます。「奇跡には三つあります」と。「一つ目の奇跡は、普通の人ができないことをするという奇跡だ。あなたが私に求めていることはこれでしょう？そんなものは何か種があつてやっているだけだ。仏教はそういう教えではない。これを私に求めても無駄ですよ」と言われました。

「二つ目の奇跡は他人の心を読み、言い当てるような奇跡だ」と。世の中の人には宗教家にそういったことを求め、場当

たりのな対処療法を求めます。しかしお釈迦様は、それも違う、仏教ではないと言われました。

お釈迦様は、一つ目と二つ目の奇跡は私の開いた覺りとは関係ないと言われます。そして「もう一つ奇跡がある。私の言うことを真面目に受け止めて、それを実践するならば、あなたに“自覺”が起こりうるのだ。それは精神的な革命だ。それは闇の中に沈んでいた人間が、新しい人間として出発する。このような奇跡は人生には他にない」と言われるのです。

迷いを繰り返すだけの存在が、自分が覚めることによって、新しい人間として一歩踏み出すことが起こりうると言われる。こういったことが仏教が開こうとしていることなのです。

浄土真宗の信心も自覺の開きを表した言葉です。一般的に親鸞聖人の教えと言えば「悪人正機」と言われています。世間の人はこの教えを、悪人が救われると解説したり、考えます。そうではなくて、悪人は自覺です。私が悪人であったという自覺が開ければ変わるのだ、と。悪人であるという自覺は、そのまま仏様から

悲しまれている者であったと、悲しまれている自己に目覚めるということです。曾我量深先生は「悩むというのは自覺である。悩まされるというのは無自覺である」と言われます。我々は悩まされるとか苦しめられると思っっています。もつと金があつたらよかったのに、もつと良い家に生まれていればと、悩まされています。主体的に悩むならば、どのような状況も引き受けていくということが起こるのだと思います。

私は結婚する前、恩師の鍵主良敬先生に「結婚して後悔したことはありませんか」と質問したことがあります。すると先生は「結婚は後悔の連続だよ」と言われました。私は、自分は悩んだり苦しむ必要のない者だということを前提にし、結婚したら後悔するのではないかと思っっていました。これが無自覺です。鍵主先生は、人間は思い通りにしたいのに思い通りにならないから、元々悩み苦しむ者なのだと言われたのです。これが自覺です。

我々は外側にあるもののせいで悩み苦しめられておると思っっています。教えに出遇うと、そもそも人間は悩み苦しむ原因を内側に持った者なのだ教えられ、自覺することが起こるのです。

良覺寺の動き

二〇二一年良覺寺報恩講

十一月二〇日二一日、二〇二一年良覺寺報恩講」が勤修されました。

コロナウイルス感染対策として、参詣者はマスク必着、本堂入り口とトイレ等に消毒液を設置し、定期的な換気を心がけて勤めました。満日中の後のお斎(食事)は中止しました。

二〇日の午後二時から「速夜」が勤まりました。「正信偈」をお勤めました。が、報恩講では普段よりも節が丁寧な「正信偈」をお勤めました。

午後七時からの「初夜」では『御伝鈔』(親鸞聖人の伝記)を拝読しました(拝読者は守山市光圓寺の北脇隆昭氏)。その後、住職より『御絵伝』(親鸞聖人の生涯を絵で描いた絵伝)の絵解を行いました。今年には四幅ある『御絵伝』の四幅目の絵解でした。

二一日の午前八時より「晨朝」を勤めました。

午前十時からの「満日中」では、本願寺第三代御門首の覚如上人(親鸞聖人の



ひ孫)が制作された『報恩講式』を良覺寺住職が現代語訳したものを拝読。その後、『二〇二一年良覺寺報恩講表白』を拝読をいたしました。

法話は四座とも太宰不二夫師(岐阜県揖斐川町・真教寺住職)でした。法話の詳細は三ヶ月にわたり『無上尊』に掲載します。



第二回役員会

二〇二一年第二回良覺寺役員会を左記のごとく開催いたします。

役員各位には門徒会筆頭総代名義で別途通知しておりますが、あらためてご確認のほどよろしくお願いいたします。

記

日時：12月19日(日) 13時30分
会場：良覺寺本堂

年末年始の行事

良覺寺では十二月三十一日から正月にかけてこのような行事をします。

まず、三十一日の午後十一時三十分頃から鐘を撞きます。一日午前0分から年始勤行を勤めます。

一日午前十時から「良覺寺修正会」を勤めます。

三日には良覺寺総代による鏡開きがあり、御供物の餅と正月の寺報、二〇二二年の年忌通知を、二〇二二年度の役員各位に配布していただきます。

お参りくださる方々は、マスク必着、本堂入り口での手先の消毒にご協力ください。



今後の良覺寺の予定

●春季永代経

3月21日(祝)午前10時より

布教使：近藤美恵子師

(真宗大谷派解放運動推進本部)

良覺寺の動き

二〇二二年 良覺寺報恩講表白

今を去ること八百年の昔、小さいともしびが灯されて人々ははじめて希望に出遇いました。人と生まれた喜びさえ見えぬまま世俗の権力とそれを支える魔界外道に夢を奪われ、いのちを弄ばれながらもなおそれを畏れ、しがみつき、こびへつらつて生きるより他になかった人々は碍り無き一筋の道と出遇い得て、歓喜するいのちを回復することができました。

親鸞聖人、あなたが出遇われた南無阿弥陀仏は世のともしび。一切の差別を超えそれぞれがそれぞれのまま輝くいのちを証し、輝けるいのちを奪う殺戮兵器の無用なる世界を見出します。

親鸞聖人、あなたが出遇われた南無阿弥陀仏の精神を、確信と情熱をもって語られる、その前に私はいます。あなたの呼びかけ、そして、あなたの教えを聞いて、いのちに目覚めた念佛者の呼びかけによって、今、私は南無阿弥陀仏を称えます。

親鸞聖人、ブツダ釋尊によって説かれ、インド、中国、朝鮮を渡り、和国にまで伝えられた南無阿弥陀仏の声は、あなたによつて真実を証しされ、無数の念佛者に届き、そして私に届けられました。あなたが称えられた南無阿弥陀仏は、祖父が聞き祖父が

称え、祖母が聞き祖母が称え、父に伝わり母に伝わり、そして私に届けられました。

今年二〇二一年、昨年から続くコロナウイルスの感染拡大は、未だに人びとの生活に大きな影響を与えています。そしてコロナウイルスの感染拡大によって、我々人間の愚かさが迷いの行動となって露呈いたしました。コロナウイルスに感染した人を心配するより、その人を責めるような風潮もありました。自粛生活を余儀なくされ、逆に自粛していない人を攻撃するような雰囲気もありました。ワクチン接種に対する考え方で人と人が分断されることもありました。こういった我々人間の愚かさは、コロナウイルス感染拡大によって初めて生まれたものではありません。コロナウイルス感染拡大という現象が、元々あった我々人間の愚かさを引つ張り出したのです。

真宗大谷派の先達である仲野良俊先生はこう言われます。「世の中が悪世であればあるほど、本願は光ってくるのです」。「悪世」とは「五濁悪世」という意味で、この場合の「濁り」とは個々の人間の愚かさが時代社会を濁し、時代社会の濁りが個々の人間を濁していくことを言います。「世の中が悪くなった」という場合、その世の中を濁しているのは我々一人ひとりですし、我々一人ひとりが世の中の濁りの影響を受けてい

るのです。仲野良俊先生が「世の中が悪世であればあるほど、本願は光ってくる」と言われるのは、我々人間の愚かさが激しく表に出ている時代社会こそ、我々人間の愚かさを照らし出し、言い当ててくださる南無阿弥陀仏の教えを聞かねばならないのだ、ということなのでしょう。

良覺寺は、南無阿弥陀仏を称え、南無阿弥陀仏のいわれを聴聞しする場所、すなわち念仏道場として存在しています。コロナウイルス感染拡大によって人間の愚かさが露呈した今という時代社会だからこそ、良覺寺は南無阿弥陀仏の教えを聴聞できる場所と時間を開いていかなければならないと、強く感じます。

今、私たちは濁り多い時代社会の中で真を見ることができず、生きていく道と生きていく居場所を見失っています。親鸞聖人の生涯、親鸞聖人の教えは暗闇の中で地を這うように生きている私たちの燈炬です。親鸞聖人を憶うとき私たちには真実に生きて往く道が開かれ、親鸞聖人を忘れるとき私たちは迷うのです。

親鸞聖人、あなたは今、私たちと共にここにいます。

宗祖親鸞聖人滅後七六一九年、国際暦二〇二一年、令和三年 十一月二十一日

良覺寺住職釋願證

敬白

法語カレンダ－の言葉

今日であるあること難き

今日である

藤代聡磨師



お内仏のお給仕(12)

◆土香炉 (どごうろ)

線香をたく仏具



三本足の一本が
手前にくるうように備える



線香は立てず、
灰の上に寝かせる

浄土真宗の門徒は、御本尊・阿弥陀如来を安置した仏壇を「お内仏(おないぶつ)」と呼びならわしてきました。

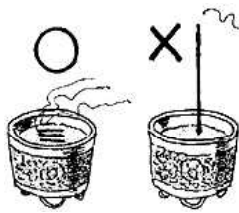
お内仏(仏壇)の「土香炉」は線香をたく仏具です。土香炉は陶器の香炉で、お内仏に備える土香炉は透かしの文様を基本とします。



備える位置は前卓(手前の卓/机)の中央です。三本足の一本が手前、二本が裏側にくるう

うに備えます。線香をたくことを「燃香」といいます。お勤めが始まる前に燃香し(線香をたき)ます。浄土真宗の作法において、線香は立てません。灰の上に寝かします。

線香を各家の土香炉の大きさに合わせて折り、火を付けて、火がついた方を左側にして寝かせます。線香を折る回数に決まりはありません。



『極楽寺ひねもす日記』 (作:宮本福助/BRIDGE COMICS)



ある日突然、父親である住職が失踪し、寺を継ぐことになった若者の奮戦記漫画です。仏具や本堂のお飾

りから、このお寺は真宗大谷派寺院であることが分かります。作者の宮本福助氏は実際に大谷派寺院の副住職を取材もされたそうです。主人公や寺を取り巻く関係者は、寺の活発な運営や継続のために、イベントや企画を打ち出したり、後継者問題に取り組みます。世間の価値観で見たならば、熱心な住職であり活発な寺として評価もされるでしょう。

しかし浄土真宗の寺であるはずなのに、この寺には南無阿弥陀仏を称える、南無阿弥陀仏の教えを聞くということが全くありません。もちろん漫画ですから仕方がないとも言えます。しかし、ともずれと実際に寺に関わる我々もこのような発想で寺の運営や継続を考えているのではないのでしょうか？

念仏道場として創建された真宗寺院は、ご縁のある人が念仏を称え、念仏のいわれを聴聞する場所として存在しているはずですが。念仏道場としての精神を失った状態で、寺が活性化され継続されも意味がないと思います。世間の発想で描いた真宗寺院の物語を通して、真宗寺院に今関わる我々が何を大事にしなければならぬかを考えさせられました。

耳をすませば

◆12月行事予定◆

覚の会12月例会

日時…12月20日(月)
午後1:30より

良覺寺役員会

日時…12月19日(日)
午後1:30より



◆1月行事予定◆

修正会

日時…1月1日(祝)
午前10:00より

年初参り

日時…1月1日(祝)
午前0:00より

覚の会1月例会

日時…1月19日(水)
午後1:30より

良覺寺役員会

日時…1月未定
午後1:30より

「年忌法要を祥月命日を過ぎて勤めても何の問題ありません」

「年忌法要は祥月命日より前に勤めるもの」であると言いますが、これに仏教的根拠はありません。このように言う理由には諸説あります。「命日の後で勤めると、命日を忘れていて、遅れて勤めたと周りの人々から勘違いされる可能性があるから」という説が有力です。

年忌法要は、祥月命日の前に勤めても後で勤めても問題ありません。

2022(令和4)年
年忌表

- ◎1周忌_____ 2021(令和3)年
- ◎3回忌_____ 2020(令和2)年
- ◎7回忌_____ 2016(平成28)年
- ◎13回忌_____ 2010(平成22)年
- ◎17回忌_____ 2006(平成18)年
- ◎23回忌_____ 2000(平成12)年
- ◎27回忌_____ 1996(平成8)年
- ◎33回忌_____ 1990(平成2)年
- ◎37回忌_____ 1986(昭和61)年
- ◎50回忌_____ 1973(昭和48)年
- ◎100回忌_____ 1923(大正12)年

◇清掃奉仕表◇

- 12月19日(日) 午前8時 東出町・城之前町
- 1月16日(日) 午前8時 大久保町
- 2月20日(日) 午前8時 西出町
- 3月13日(日) 午前8時 北浦町

◇良覺寺関係事業◇

- ※近江第2組正信偈講座
12月の「正信偈講座」は中止です。
- ※東本願寺(真宗本願)修正会
1月1日〜7日

『無上尊』 1月号(No.316)
発行日 2021年12月10日発行
編集・発行 真宗大谷派・良覺寺
滋賀県草津市矢橋町1137

発行者 住職◇釋願證(谷大輔)

▼来年二〇二二(令和四)年の「年忌案内」は一月三日に配布いたしますが、上記年忌表を参考にし、過去帳を見て、ご自分の家の年忌をご確認ください▼表紙コラムの香樹院徳龍師は江戸期の大谷派講師です▼コロナウィルスのおミクロン株が気になります。現時点でオミクロン株についての確かな情報はありません▼オミクロン株の感染拡大の傾向があれば、年末年始の良覺寺行事を変更し、掲示板等で告知いたします。



携帯サイト